

変わっていくから、愛おしい

是故空中無色

滝の水が
ゴウゴウと音を立てながら
落ちていく。

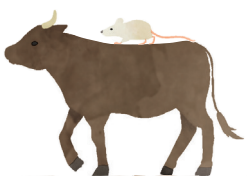
「あれが白糸の滝だよ」
と教えてもらって
振り向いた時には
同じ「白糸の滝」ではあるけれど。
滝となっていた水は
もう滝壺に流れ込み

さつきとは違う水が流れている。

一瞬も止まることのない
時の流れとともに
私たちの世界は
変わり続けていく。
私自身も変わっている。

変わらないものはない。
当たり前のもものも
いつかなくなってしまう。

だからこそ、愛おしく思える。



是故空中無色

ぜこくうちゅう
むしき

すべての現象に実
体がないという空
の立場に立てば、
私というものは結
局どこにも存在し
ない。